

市民の声とインターネット

吉村順子

junko@jca-p.shinagawa.tokyo.jp

市民コンピュータコミュニケーション研究会

今回は、私がここ2年あまり活動のベースにしている団体を紹介しましょう。「市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCA, Japan Computer Access）」という非営利の任意団体で、賛同しているメンバーは60名ほどです。

1992年の最初に、NIFTY-Serveのフォーラム「市民運動・生き生きネット（FSHIMIN）」で、前回紹介したAPCの会員ネットワークが日本にないことが指摘されました。そこからネットニュースfjにも同様の提起があり、それらの呼びかけに応じて集まった有志がAPCの会員ネットワークを日本に作れるか、その可能性を模索しはじめたのが、JCAの始まりです。

じかに会ってのミーティングも重ねましたが、日常の討論はメールリングリスト（ML）を使って行いました。組織を越えてコミュニケーションをするために、MLはたいへん有効でした。しかし当時はNIFTY-ServeやPC-VANといった大手商用BBSがインターネットとのメールリンクを持っていなかったため、それらBBSの関連コーナーへは有志が討論の結果を手動で転載するというのも長く続けました。現在はメールのやりとりが実現されたため両BBSのユーザーも数多くJCAのMLに参加しています。

現在JCAは運営体制を確立して、1995年4～5月の正式発足に向けて準備中です。会の目的のひとつは「日本にAPCの会員ネットワークを作ること」です。ほかに「市民団体がインターネット利用をするために必要な援助を行う」、「日本の市民がインターネットに向けて情報を発信するための拠点を作る」といったことが活動計画に盛り込まれています。

APCのデータにアクセスするだけなら、商用ネットを通じてtelnetすれば済みます。これだけインターネット商用プロバイダーが増え、個人でインターネットにアクセスしやすくなっているのに、あえてJCAが組織的に取り組むのには訳があります。

日本の市民団体が組織的に電子メールを活用しているところはまだまだわずかです。多くはスタッフが個人的な興味や必要性を感じて使っているというところなので、組織的な広報活動にはまだまだ利用されていないのが実情です。組織的にそうしたニーズを掘り起こすには個人的な働きかけでは限界があります。電子ネット

ワークがその団体に根付くには、団体と団体の対等な働きかけのなかから信頼関係を築き、継続的、組織的にフォローしていくことが必要になっています。

市民団体の多くは自分たちで地道に集めたデータや、長年の活動内容を持っています。それを知らせる手段はこれまでは紙による配布が主でしたが、インターネットに適切に情報を発信できるようになれば、マスコミを通さない日本の本当の顔を世界にアピールできるようになるでしょう。

そのとっかかりとなるJCAには「自立性」がとても重要になってきます。個人の資産をあてにした運営や、景気に左右されるようなものでは信頼を得られません。少なくとも会の運営やネットワークの運用にかかわる基本的な管理費は会員の納める会費などで安定した運営を実現することが重要です。

それには、会員が自ら情報を発信するためのネットワークをちょっと高めのお金を払ってでも、自らの手で仲間と協力して確保することの意義を理解する必要があります。一見平和に思える日本にどっぷり浸かっている私たちですが、いざというときにこそ、情報を安定して発信できる「場」がないと本当に市民の権利を行使することは難しいのではないかと、考えるようになりました。11月にJCAはミーティングを兼ねた合宿を行いました。そこで出た意見で印象的だったのは、「現在WWWまっ盛りのインターネットだけ、目の不自由な人もあらゆる情報に同じように接することができるようにすべきではないか」というのがありました。一行40字程度の点字ピンディスプレイの表示ではイメージを扱うことはたいへん困難です。だったら、JCAはまずキャラクタベースのGopherで情報提供したほうがいい、という意見が大勢を占めました。それにはIP接続が必要です。いつかもっと安くなるとは信じていますが、いまはIP接続を維持するにはとてもお金がかかります。

ボランティア活動や国際貢献に興味のある方、またネットワーク越しになにか活動したいと考えている方、力を合わせて日本の姿をインターネットに伝えていきませんか？

JCAへのお問い合わせは、info@jca-p.shinagawa.tokyo.jpまでどうぞ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp